

Ⅲ 京都市の推計人口

1 概要

平成20年10月1日現在の世帯数は67万1261世帯、推計人口は146万7313人で、前年と比べて、世帯数は5913世帯(0.9%)の増加、一方、人口は1275人(0.1%)の減少となりましたが、前年と比べて減少幅は縮小しています。

人口を男女別にみますと、男性は69万7656人で、前年と比べて1290人(0.2%)の減少となり、10月の人口としては昭和45年以来37年ぶりに70万人を下回った前年に引き続き減少しています。女性は76万9657人で、前年と比べて15人(0.0%)の微増となり、3年ぶりに増加に転じました。この結果、女性100人に対する男性の割合を表す性比は90.65となり、昭和50年以降低下が続いています。

また、平成19年10月から平成20年9月までの1年間の人口動態のうち、自然動態をみますと、出生数は1万1972人で、前年と比べて185人(1.6%)の増加、死亡数は1万2924人で、前年と比べて18人(0.1%)の増加となりました。前年、この調査を開始した昭和46年以降で最少となった出生数が増加に転じた一方、死亡数は、調査開始以降で最も多い数値を更新しています。自然動態による増加数はマイナス952人となり、4年連続で死亡数が出生数を上回ったものの、その差はやや小さくなりました。同じく社会動態をみますと、転入は10万8197人で、前年と比べて1012人(0.9%)増加、転出は10万9818人で、前年と比べて1520人(1.4%)減少、その他の異動は1298人で、前年と比べて51人(3.8%)減少となりました。前年、調査開始以降で共に最少となった転入転出のうち、転入が増加に転じた一方、転出は引き続き減少傾向にあります。

表-1 世帯数及び人口の推移

年次	世帯数 (世帯)	人 口 (人)			性 比 (女=100)	1世帯当 り人員(人)	各年10月1日現在	
		総 数	男	女			人口密度 (人/km ²)	面 積 (km ²)
昭和45年	420,768	1,419,165	697,418	721,747	96.63	3.37	2,324	610.61
50年	476,336	1,461,059	718,213	742,846	96.68	3.07	2,393	610.61
55年	523,708	1,473,065	721,402	751,663	95.97	2.81	2,412	610.61
60年	534,821	1,479,218	721,281	757,937	95.16	2.77	2,423	610.61
平成2年	552,325	1,461,103	708,601	752,502	94.17	2.65	2,394	610.21
7年	586,647	1,463,822	706,859	756,963	93.38	2.50	2,399	610.21
12年	620,327	1,467,785	704,281	763,504	92.24	2.37	2,405	610.22
17年	653,860	1,474,811	703,210	771,601	91.14	2.26	1,781	827.90
18年	660,638	1,472,511	701,695	770,816	91.03	2.23	1,779	827.90
19年	665,348	1,468,588	698,946	769,642	90.81	2.21	1,774	827.90
20年	671,261	1,467,313	697,656	769,657	90.65	2.19	1,772	827.90

注)平成17年以前は国勢調査結果、平成18年以降は推計人口です。

表-2 人口動態(10月から9月まで)の推移

年次	人口動態 増加数(人)	自 然 動 態 (人)			社 会 動 態 (人)			
		増加数	出 生	死 亡	増加数	転 入	転 出	そ の 他
平成11年	120	1,455	13,310	11,855	△ 1,335	119,595	123,622	950
12年	1,110	1,608	13,183	11,575	△ 498	119,624	122,973	1,113
13年	△81	1,555	12,754	11,199	△ 1,636	120,567	123,357	1,154
14年	△726	1,444	12,785	11,341	△ 2,170	118,432	121,911	1,309
15年	△1,153	757	12,536	11,779	△ 1,910	118,556	121,829	1,363
16年	△1,587	22	11,966	11,944	△ 1,609	115,802	118,809	1,398
17年	△932	△525	11,802	12,327	△ 407	112,176	114,205	1,622
18年	△2,300	△698	11,993	12,691	△ 1,602	110,912	113,647	1,133
19年	△3,923	△1,119	11,787	12,906	△ 2,804	107,185	111,338	1,349
20年	△1,275	△952	11,972	12,924	△ 323	108,197	109,818	1,298

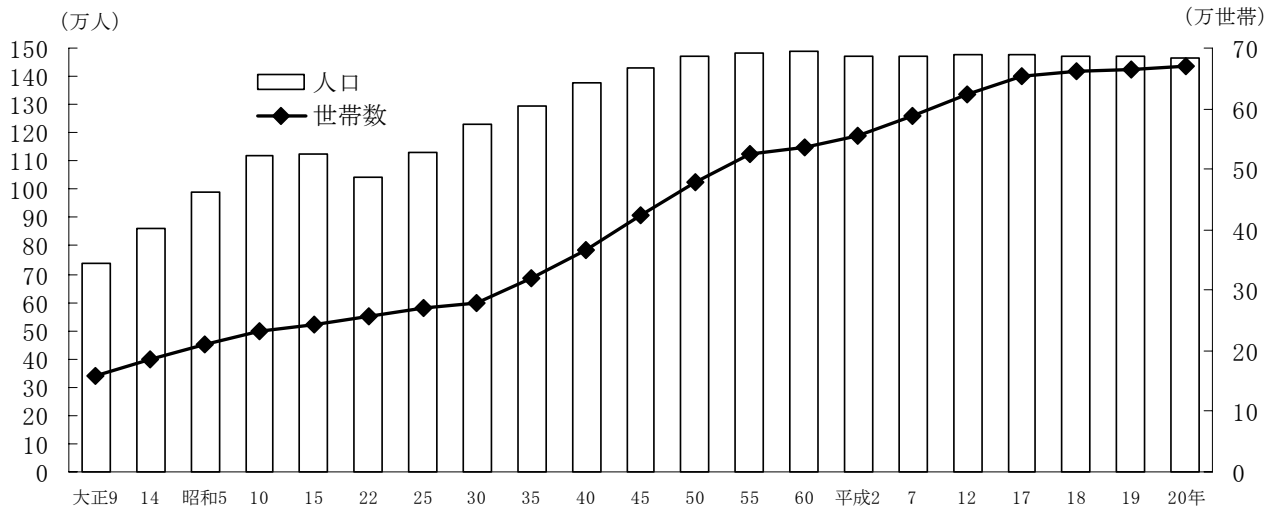
2 世帯数及び人口

(1) 現在市域による推移

現在の市域（平成17年4月に京北町を編入した後の区域）による国勢調査結果をみますと、世帯数は増加傾向が続き、人口は昭和60年の148万6402人をピークに平成2年にいったん減少したものの、平成7年以降は微増となっています。なお、平成18年以降の推計人口は減少に転じています。

推計人口についてみますと、平成20年10月1日現在の世帯数は67万1261世帯で、前年と比べて5913世帯（0.9割）増加する一方、人口は146万7313人で、前年と比べて1275人（0.1割）減少したことから、1世帯当たりの世帯人員は2.19人となり、前年と比べて0.02人減少しています。

図-1 現在の市域による世帯数及び人口の推移



注)平成17年以前は国勢調査結果、平成18年以降は推計人口です。

(2) 行政区別

世帯数を行政区別にみますと、最も多いのは伏見区の12万2222世帯で、全体の18.2割を占めており、次いで右京区の8万9860世帯（構成比13.4割）、左京区の8万794世帯（同12.0割）の順となっています。一方、最も少ないのは東山区の2万669世帯（同3.1割）となっており、次いで下京区の4万480世帯（同6.0割）、上京区の4万2784世帯（同6.4割）の順となっています。

世帯数の対前年増加率をみますと、増加率が最も高いのは中京区の2.3割（1215世帯増加）で、次いで下京区の1.7割（668世帯増加）、南区の1.5割（684世帯増加）の順となっています。一方、東山区と北区の2行政区のみ世帯数は減少しています。

1世帯当たりの人員は、下京区で1.88人、上京区及び中京区で1.93人、東山区で1.98人、左京区で2.07人、北区で2.17人と、これらの6行政区が京都市の2.19人を下回っています。また、最も多い西京区で2.51人、次いで山科区で2.33人、伏見区で2.32人と、都心区では少なく、周辺区で多くなる傾向がみられます。

人口を行政区別にみますと、最も多いのは伏見区の28万3587人で全体の19.3割を占めており、次いで右京区の20万3018人（構成比13.8割）、左京区の16万7121人（同11.4割）と続いています。一方、最も少ないのは東山区の4万827人（同2.8割）で、次いで下京区の7万6144人（同5.2割）、上京区の8万2613人（同5.6割）と続いています。

なお、下京区は平成11年から、右京区は平成15年から、それぞれ増加が続き、また、中京区と南区は減少から増加に転じ、これらの4行政区で増加となりました。その他の行政区では人口が減少しており、東山区は昭和51年の分区以降、北区は平成13年から、左京区と山科区は平成14年から、上京区と伏見区は平成15年から、西京区は平成18年から、それぞれ減少しています。

人口1000人当たりの増加率をみますと、増加率が最も高いのは中京区の13.8で、次いで南区の5.7となっています。一方、減少率が最も高いのは東山区の13.1で、次いで北区の7.3、左京区の5.2と続いています。

性比をみますと、最も高いのは南区の99.44で、次いで左京区の94.34、伏見区の92.26と続き、最も低いのは東山区の73.11で、次いで中京区の84.48、下京区の85.75と続いています。

表-3 行政区（支所）別世帯数及び人口

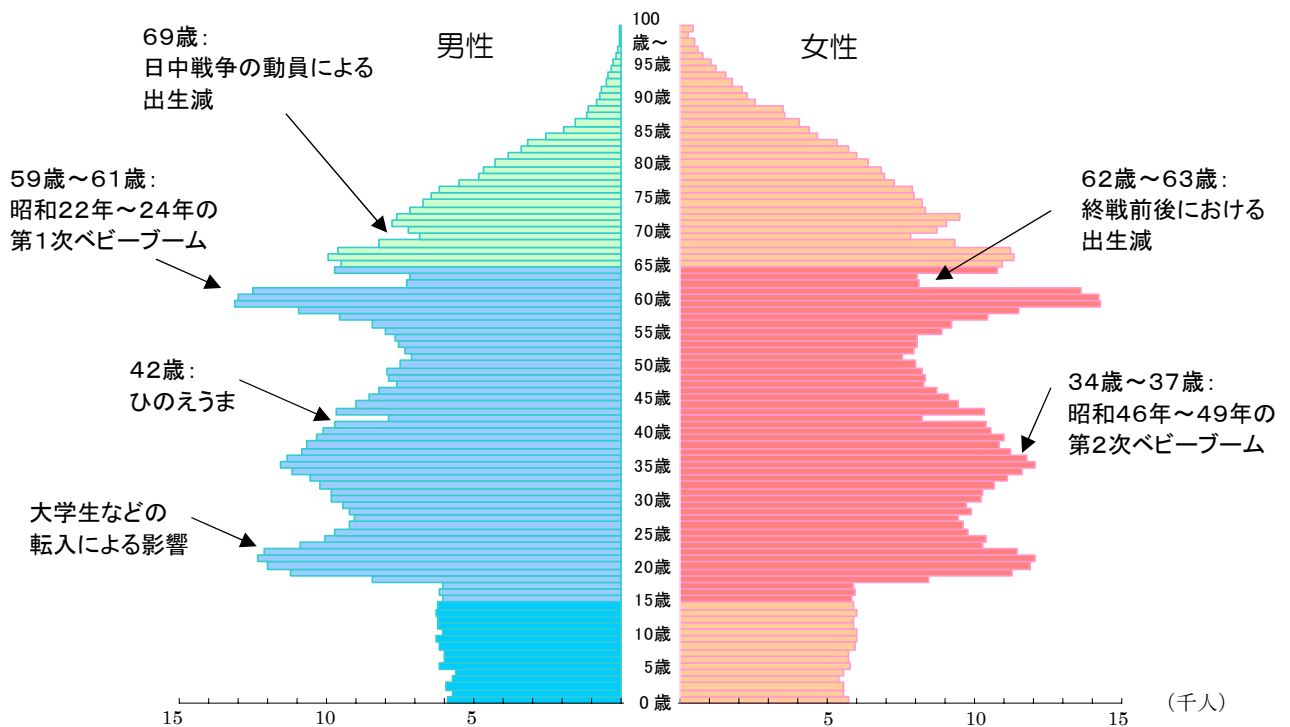
行政区・支所	世帯数 (世帯)	人口(人)			性比 (女=100)	1世帯当 り人員(人)	人口密度 (人/km ²)	面積 (km ²)	平成20年10月1日現在			
		19年10月1日現在							人口動態 増加数	人口増加率 (1000人当たり)		
		総数	男	女							世帯数(世帯)	人口(人)
京都市	671,261	1,467,313	697,656	769,657	90.65	2.19	1,772	827.90	665,348	1,468,588	△ 1,275	△ 0.9
北 区	56,338	122,265	58,552	63,713	91.90	2.17	1,288	94.92	56,387	123,167	△ 902	△ 7.3
上京区	42,784	82,613	38,380	44,233	86.77	1.93	11,619	7.11	42,487	82,941	△ 328	△ 4.0
左京区	80,794	167,121	81,129	85,992	94.34	2.07	677	246.88	80,623	167,995	△ 874	△ 5.2
中京区	53,707	103,533	47,410	56,123	84.48	1.93	14,029	7.38	52,492	102,127	1,406	13.8
東山区	20,669	40,827	17,243	23,584	73.11	1.98	5,473	7.46	20,780	41,367	△ 540	△ 13.1
山科区	58,321	136,064	64,861	71,203	91.09	2.33	4,728	28.78	57,632	136,206	△ 142	△ 1.0
下京区	40,480	76,144	35,152	40,992	85.75	1.88	11,165	6.82	39,812	75,910	234	3.1
南 区	44,883	98,683	49,202	49,481	99.44	2.20	6,254	15.78	44,199	98,124	559	5.7
右京区	89,860	203,018	96,146	106,872	89.96	2.26	695	291.95	88,795	202,837	181	0.9
西京区	61,203	153,458	73,494	79,964	91.91	2.51	2,592	59.20	60,701	153,791	△ 333	△ 2.2
本 所	40,422	97,499	46,994	50,505	93.05	2.41	4,402	22.149	40,018	97,376	123	1.3
洛西支所	20,781	55,959	26,500	29,459	89.96	2.69	1,510	37.051	20,683	56,415	△ 456	△ 8.1
伏見区	122,222	283,587	136,087	147,500	92.26	2.32	4,602	61.62	121,440	284,123	△ 536	△ 1.9
本 所	70,671	167,563	81,263	86,300	94.16	2.37	4,856	34.509	69,828	167,049	514	3.1
深草支所	29,484	61,479	29,612	31,867	92.92	2.09	6,686	9.195	29,456	62,129	△ 650	△ 10.5
醍醐支所	22,067	54,545	25,212	29,333	85.95	2.47	3,044	17.916	22,156	54,945	△ 400	△ 7.3

(3) 年齢別人口構造

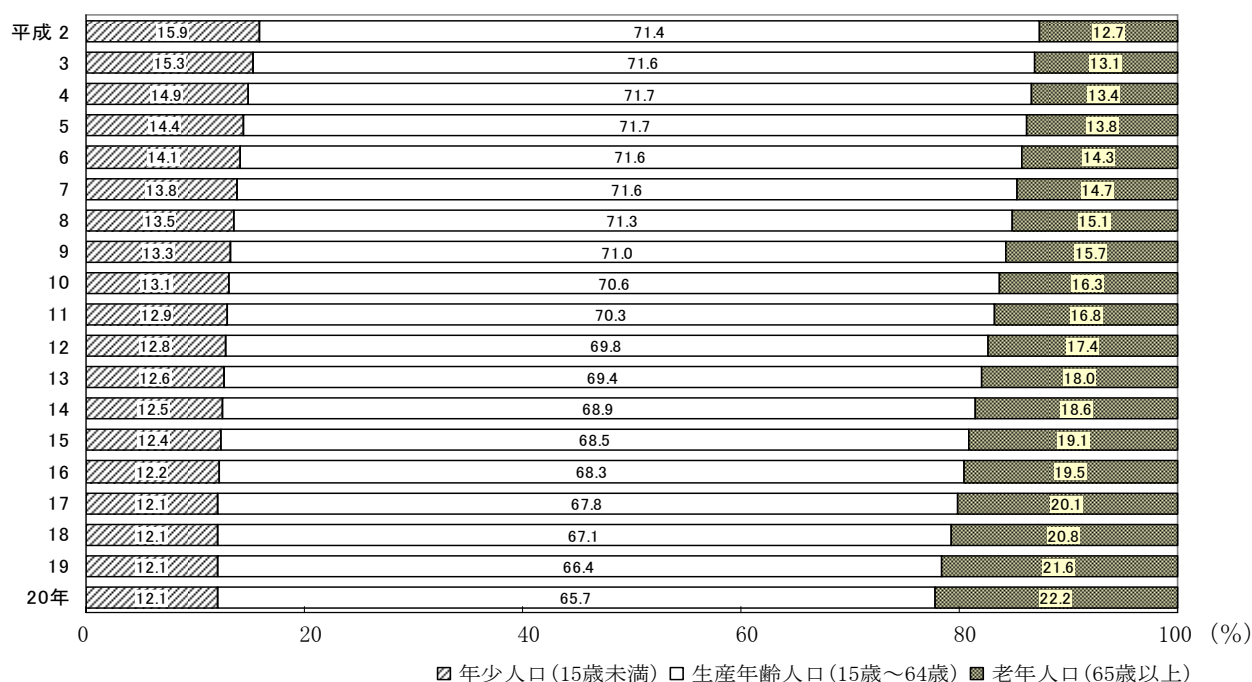
京都市の人口構造を人口ピラミッドで見ますと、大学生などの転入により、19歳から22歳を中心とした年代層が多いことが特徴となっています。また、34歳から37歳は第2次ベビーブームにより、59歳から61歳は第1次ベビーブームにより、それぞれ多くなっており、42歳はひのえうまの影響により、62歳から63歳は第2次世界大戦終戦前後の影響により、それぞれ少なくなっています。なお、近年は出生数に大きな変化がないため、17歳以下はほぼ同数となっています。

年齢3区分別人口をみますと、15歳未満の年少人口は17万7015人(人口総数に占める割合は12.1%)、15歳から64歳までの生産年齢人口は96万4708人(同65.7%)、65歳以上の老年人口は32万5590人(同22.2%)となっています。前年と比べて、年少人口は228人(0.1%)、生産年齢人口は1万98人(1.0%)、それぞれ減少していますが、老年人口は9051人(2.9%)増加しています。年齢別推計人口の作成を開始した平成3年以降、老年人口は増加している一方で、年少人口は減少し、生産年齢人口も平成8年以降減少が続いています。

図-2 京都市の人口ピラミッド(平成20年10月1日現在)



図－3 年齢3区分別推計人口の割合の推移



行政区別に年齢3区分別人口の推移をみますと、年少人口が前年と比べて増加したのは上京区（前年に比べて38人増加）、左京区（同25人増加）、中京区（同275人増加）、下京区（同26人増加）及び南区（同106人増加）の5行政区となっています。生産年齢人口は中京区（同761人増加）と下京区（同109人増加）の2行政区で増加しています。老年人口はすべての行政区で増加しています。

年齢3区分別人口の構成比をみますと、年少人口の構成比が最も高いのは西京区の15.0％で、次いで伏見区（13.4％）、山科区及び右京区（12.6％）の順となっています。また、年少人口が増加した5行政区では、構成比も前年に比べて上昇しています。

生産年齢人口の構成比が最も高いのは中京区の67.6％で、次いで南区（66.8％）、左京区及び下京区（66.5％）の順となっており、構成比はすべての行政区で前年に比べて低下しました。

老年人口の構成比が最も高いのは東山区の29.4％で、次いで上京区（25.2％）、下京区（23.8％）の順となっています。構成比はすべての行政区で前年に比べて上昇し、西京区を除く10行政区で20％を超えています。

表－4 行政区別年齢3区分別推計人口

(単位 人, %)			各年10月1日現在								
行政区 年齢階級	平成20年		平成19年	行政区 年齢階級	平成20年		平成19年	行政区 年齢階級	平成20年		平成19年
	人口	構成比	人口		人口	構成比	人口		人口	構成比	人口
京都市				中京区				南区			
0～14歳	177,015	12.1	177,243	0～14歳	10,663	10.3	10,388	0～14歳	12,161	12.3	12,055
15～64歳	964,708	65.7	974,806	15～64歳	69,940	67.6	69,179	15～64歳	65,929	66.8	66,007
65歳以上	325,590	22.2	316,539	65歳以上	22,930	22.1	22,560	65歳以上	20,593	20.9	20,062
北区				東山区				右京区			
0～14歳	14,171	11.6	14,317	0～14歳	3,048	7.5	3,124	0～14歳	25,648	12.6	25,828
15～64歳	79,730	65.2	81,110	15～64歳	25,767	63.1	26,291	15～64歳	131,477	64.8	132,673
65歳以上	28,364	23.2	27,740	65歳以上	12,012	29.4	11,952	65歳以上	45,893	22.6	44,336
上京区				山科区				西京区			
0～14歳	7,868	9.5	7,830	0～14歳	17,201	12.6	17,252	0～14歳	23,021	15.0	23,135
15～64歳	53,921	65.3	54,515	15～64歳	88,654	65.2	90,230	15～64歳	101,316	66.0	102,782
65歳以上	20,824	25.2	20,596	65歳以上	30,209	22.2	28,724	65歳以上	29,121	19.0	27,874
左京区				下京区				伏見区			
0～14歳	17,799	10.7	17,774	0～14歳	7,413	9.7	7,387	0～14歳	38,022	13.4	38,153
15～64歳	111,143	66.5	112,842	15～64歳	50,630	66.5	50,521	15～64歳	186,201	65.7	188,656
65歳以上	38,179	22.8	37,379	65歳以上	18,101	23.8	18,002	65歳以上	59,364	20.9	57,314

3 自然動態

(1) 増加数

この1年間(平成19年10月から平成20年9月まで)の自然動態による増加数はマイナス952人で、4年連続で出生数が死亡数を下回りましたが、減少数は前年から167人縮小しました。

行政区別にみますと、西京区が465人増加で最も多く、次いで山科区(131人増加)、伏見区(125人増加)、南区(52人増加)、右京区(38人増加)の順で、5行政区が増加となっており、前年より増加数は伏見区では減少したものの、西京区、山科区では増加し、南区、右京区では、前年の減少から増加に転じました。その他の行政区では、上京区、東山区、下京区は昭和54年から、中京区は昭和58年から、左京区は平成3年から、北区は平成10年から引き続き減少となっています。

自然動態による増加を人口1000人当たりの増加率で見ますと、京都市全体では0.6人減(前年0.8人減)となっています。

(2) 出生数

出生数は、昭和47年の2万6284人をピークに、その後は、年によって増減しながらも減少傾向で推移していますが、この1年間では1万1972人の出生があり、前年と比べて185人増加しています。

人口1000人当たりの出生率は、前年と比べて0.2ポイント上昇し、8.2となっています。

また、出生率も低下傾向にあり、平成4年以降は9.0から9.2で推移していましたが、平成13年には9.0を割り、平成16年以降は8.0から8.2で推移しています。

出生数を行政区別にみますと、伏見区の2526人が最も多く、次いで右京区の1656人、西京区の1503人と続いています。人口1000人当たりの出生率では、南区の10.1が最も高く、次いで西京区の9.8、伏見区の8.9の順となっており、逆に最も低いのは東山区の4.4で、次いで上京区の6.4、北区の6.8と続いています。出生数を前年と比較すると、上京区(前年に比べて68人増加)、左京区(同38人増加)、中京区(同22人増加)、山科区(同32人増加)、南区(同112人増加)、右京区(同25人増加)、西京区(同38人増加)の7行政区で増加し、その他の行政区は減少しています。

表-5 出生率・死亡率の推移

年次	人口1000人当たり	
	出生率	死亡率
平成6年	9.2	7.5
7年	9.2	7.6
8年	9.0	7.3
9年	9.2	7.5
10年	9.1	7.6
11年	9.1	8.1
12年	9.0	7.9
13年	8.7	7.6
14年	8.7	7.7
15年	8.5	8.0
16年	8.1	8.1
17年	8.0	8.4
18年	8.1	8.6
19年	8.0	8.8
20年	8.2	8.8

注) 各年の出生率及び死亡率は、前年10月から当年9月までの出生数及び死亡数を前年10月1日現在の推計人口で除して求めています。

(3) 死亡数

死亡数は、出生数とは逆に増加傾向にあって、平成17年以降、1万2000人台で推移しています。この1年間でも1万2924人の死亡があり、前年と比べて18人増加しています。

人口1000人当たりの死亡率の推移をみますと、8.1となった平成11年を除いて7.3から7.9の間で推移していましたが、平成15年に8.0となって以降は上昇傾向が続いています。

死亡数を行政区別にみますと、伏見区が2401人と最も多く、次いで右京区の1618人、左京区の1532人と続いています。人口1000人当たりの死亡率では、東山区が13.7と最も高く、次いで上京区の10.4、下京区の10.2と続き、都心区での死亡率が高くなっています。死亡数を前年と比較すると、北区(前年に比べて65人増加)、左京区(同36人増加)、中京区(同23人増加)、南区(同15人増加)の4行政区で増加し、その他の行政区で減少しました。

表－6 行政区（支所）別自然動態（平成19年10月から20年9月まで）及び自然動態率

行政区・支所	自然動態（人）			自然動態率（人口1000人当たり）			平成19年自然動態（人）		
	増加数	出生	死亡	増加率	出生率	死亡率	増加数	出生	死亡
京都市	△952	11,972	12,924	△0.6	8.2	8.8	△1,119	11,787	12,906
男	△569	6,106	6,675	△0.8	8.7	9.6	△608	6,030	6,638
女	△383	5,866	6,249	△0.5	7.6	8.1	△511	5,757	6,268
北 区	△341	832	1,173	△2.8	6.8	9.5	△260	848	1,108
上京区	△334	531	865	△4.0	6.4	10.4	△429	463	892
左京区	△330	1,202	1,532	△2.0	7.2	9.1	△332	1,164	1,496
中京区	△189	778	967	△1.9	7.6	9.5	△188	756	944
東山区	△384	181	565	△9.3	4.4	13.7	△369	216	585
山科区	131	1,184	1,053	1.0	8.7	7.7	93	1,152	1,059
下京区	△185	589	774	△2.4	7.8	10.2	△124	663	787
南 区	52	990	938	0.5	10.1	9.6	△45	878	923
右京区	38	1,656	1,618	0.2	8.2	8.0	△23	1,631	1,654
西京区	465	1,503	1,038	3.0	9.8	6.7	420	1,465	1,045
本 所	420	1,090	670	4.3	11.2	6.9	389	1,045	656
洛西支所	45	413	368	0.8	7.3	6.5	31	420	389
伏見区	125	2,526	2,401	0.4	8.9	8.5	138	2,551	2,413
本 所	308	1,581	1,273	1.8	9.5	7.6	322	1,589	1,267
深草支所	△148	455	603	△2.4	7.3	9.7	△181	460	641
醍醐支所	△35	490	525	△0.6	8.9	9.6	△3	502	505

注）自然動態率は、自然動態の数値を平成19年10月1日の推計人口で除することにより求めています。

4 社会動態

この1年間の区内移動を含む転入者数は10万8197人（前年と比べて1012人増加）、転出者数は10万9818人（同1520人減少）で、その他の異動による純増加数1298人（同51人減）を含めた社会動態はマイナス323人となっています。

京都市域外への移動状況をみますと、京都府内との移動では、転入は8715人（同188人増加）、転出は8565人（同800人減少）で150人の転入超過（前年は838人の転出超過）、他府県との移動では、転入は4万2222人（前年と比べて546人増加）、転出は4万3529人（同898人減少）で1307人の転出超過（前年は2751人の転出超過）となっています。

行政区別にみますと、社会動態が増加したのは、中京区（1595人増加）、南区（507人増加）、下京区（419人増加）、右京区（143人増加）、上京区（6人増加）の順の5行政区で、中京区は14年連続、下京区は12年連続、右京区は5年連続、上京区及び南区は4年連続で増加となっています。一方、減少した6行政区のうち、東山区は山科区と分区した昭和51年以降連続して減少となっています。前年と比べますと、転入数は中京区（前年と比べて1139人増加）、南区（同596人増加）、下京区（同432人増加）、右京区（同173人増加）及び東山区（同100人増加）の5行政区で増加し、転出数は下京区（同302人増加）、右京区（同168人増加）、南区（同87人増加）及び東山区（同72人増加）の4行政区で増加しています。

その他の行政区では転入数、転出数共に減少しています。

表－7 転入率・転出率の推移

年次	人口1000人当たり	
	転入率	転出率
平成6年	81.6	86.2
7年	85.3	86.9
8年	85.3	87.4
9年	82.5	85.9
10年	81.8	84.2
11年	81.5	84.3
12年	81.6	83.8
13年	82.1	84.0
14年	80.6	83.0
15年	80.7	82.9
16年	78.8	80.9
17年	76.4	77.8
18年	75.2	77.1
19年	72.8	75.6
20年	73.7	74.8

注）各年の転入率及び転出率は、前年10月から当年9月までの転入数及び転出数を前年10月1日現在の推計人口で除して求めています。

表－８ 行政区（支所）別社会動態（平成１９年１０月から２０年９月まで）及び社会動態率

行政区・支所	社会動態（人）				社会動態率（人口1000人当たり）				平成19年社会動態（人）			
	増加数	転入	転出	その他	増加率	転入率	転出率	その他	増加数	転入	転出	その他
京都市	△323	108,197	109,818	1,298	△ 0.2	73.7	74.8	0.9	△2,804	107,185	111,338	1,349
男	△721	54,543	55,954	690	△ 1.0	78.0	80.1	1.0	△2,141	53,985	56,838	712
女	398	53,654	53,864	608	0.5	69.7	70.0	0.8	△663	53,200	54,500	637
北 区	△561	7,400	8,061	100	△ 4.6	60.1	65.4	0.8	△353	7,849	8,281	79
上京区	6	6,756	6,808	58	0.1	81.5	82.1	0.7	93	7,008	6,961	46
左京区	△544	12,570	13,210	96	△ 3.2	74.8	78.6	0.6	△506	12,811	13,440	123
中京区	1,595	10,161	8,656	90	15.6	99.5	84.8	0.9	69	9,022	9,081	128
東山区	△156	3,169	3,358	33	△ 3.8	76.6	81.2	0.8	△177	3,069	3,286	40
山科区	△273	9,156	9,532	103	△ 2.0	67.2	70.0	0.8	△163	9,356	9,632	113
下京区	419	7,977	7,634	76	5.5	105.1	100.6	1.0	303	7,545	7,332	90
南 区	507	7,949	7,567	125	5.2	81.0	77.1	1.3	10	7,353	7,480	137
右京区	143	13,295	13,361	209	0.7	65.5	65.9	1.0	116	13,122	13,193	187
西京区	△798	10,026	10,923	99	△ 5.2	65.2	71.0	0.6	△1,098	10,115	11,363	150
本 所	△297	7,101	7,450	52	△ 3.1	72.9	76.5	0.5	△668	6,995	7,772	109
洛西支所	△501	2,925	3,473	47	△ 8.9	51.8	61.6	0.8	△430	3,120	3,591	41
伏見区	△661	19,738	20,708	309	△ 2.3	69.5	72.9	1.1	△1,098	19,935	21,289	256
本 所	206	11,832	11,794	168	1.2	70.8	70.6	1.0	△561	11,677	12,380	142
深草支所	△502	4,654	5,229	73	△ 8.1	74.9	84.2	1.2	△213	4,896	5,167	58
醍醐支所	△365	3,252	3,685	68	△ 6.6	59.2	67.1	1.2	△324	3,362	3,742	56

注）社会動態率は、社会動態の数値を平成19年10月1日の推計人口で除することにより求めています。

表－９ 行政区別前住地（転入），転出先別移動人口

行政区		平成19年10月～平成20年9月まで				
		総数	区内	他区	京都府内	他府県
京都市	転入	108,197	26,205	31,055	8,715	42,222
	転出	109,818	26,774	30,950	8,565	43,529
北 区	転入	7,400	1,639	2,462	333	2,966
	転出	8,061	1,700	2,815	374	3,172
上京区	転入	6,756	909	2,436	405	3,006
	転出	6,808	927	2,519	337	3,025
左京区	転入	12,570	3,062	2,926	581	6,001
	転出	13,210	3,117	3,347	506	6,240
中京区	転入	10,161	1,558	4,018	686	3,899
	転出	8,656	1,586	3,207	404	3,459
東山区	転入	3,169	448	1,129	176	1,416
	転出	3,358	450	1,356	141	1,411
山科区	転入	9,156	3,062	2,264	520	3,310
	転出	9,532	3,093	2,052	541	3,846
下京区	転入	7,977	1,058	2,769	518	3,632
	転出	7,634	1,089	2,898	466	3,181
南 区	転入	7,949	1,474	2,590	799	3,086
	転出	7,567	1,552	2,260	741	3,014
右京区	転入	13,295	3,661	4,129	1,032	4,473
	転出	13,361	3,746	4,019	929	4,667
西京区	転入	10,026	2,862	2,582	1,103	3,479
	転出	10,923	2,897	2,598	1,323	4,105
伏見区	転入	19,738	6,472	3,750	2,562	6,954
	転出	20,708	6,617	3,879	2,803	7,409

表－１０ 前住地（転入）、転出先別移動人口の推移

各年前年10月～当年9月まで

年次	転入				
	総数	区内	他区	京都府内	他府県
昭和63年	123,382	29,499	38,499	10,411	44,973
平成元年	121,653	28,030	38,144	10,664	44,815
2年	115,658	25,268	36,317	10,669	43,404
3年	110,841	23,627	33,526	10,139	43,549
4年	111,407	24,301	33,303	9,840	43,963
5年	113,925	26,310	34,889	9,854	42,872
6年	119,166	28,944	36,748	10,550	42,924
7年	124,354	29,860	37,841	10,770	45,883
8年	124,797	32,497	37,736	10,943	43,621
9年	120,865	30,173	36,454	10,732	43,506
10年	119,831	29,511	36,277	10,416	43,627
11年	119,595	30,315	36,594	10,365	42,321
12年	119,624	30,815	35,959	10,114	42,736
13年	120,567	30,797	35,920	10,527	43,323
14年	118,432	30,163	34,910	10,171	43,188
15年	118,556	30,019	35,457	9,717	43,363
16年	115,802	28,744	34,379	9,177	43,502
17年	112,176	27,951	32,777	9,181	42,267
18年	110,912	27,425	32,222	8,926	42,339
19年	107,185	25,851	31,131	8,527	41,676
20年	108,197	26,205	31,055	8,715	42,222

年次	転出				
	総数	区内	他区	京都府内	他府県
昭和63年	132,765	29,465	38,261	15,033	50,006
平成元年	129,768	27,963	37,883	13,838	50,084
2年	123,180	25,237	36,141	11,835	49,967
3年	116,790	23,612	33,534	12,239	47,405
4年	116,724	24,270	33,158	12,275	47,021
5年	120,753	26,298	34,786	12,114	47,555
6年	125,876	28,920	36,643	12,929	47,384
7年	126,662	29,808	37,719	12,244	46,891
8年	127,987	32,480	37,691	11,483	46,333
9年	125,834	30,586	36,056	12,159	47,033
10年	123,353	30,072	35,930	11,278	46,073
11年	123,622	30,849	36,249	10,780	45,744
12年	122,973	31,464	35,497	10,451	45,561
13年	123,357	31,414	35,719	10,443	45,781
14年	121,911	30,788	34,843	9,788	46,492
15年	121,829	30,737	35,426	10,754	44,912
16年	118,809	29,608	34,299	9,974	44,928
17年	114,205	28,762	32,594	9,044	43,805
18年	113,647	27,932	32,226	9,422	44,067
19年	111,338	26,414	31,132	9,365	44,427
20年	109,818	26,774	30,950	8,565	43,529

注)平成元年までの「他府県」には、「その他」(職権による記載又は消除等)による異動が含まれています。

5 国勢統計区別の状況

(1) 世帯数増加率

平成20年10月1日現在の世帯数の対前年増加率を国勢統計区別にみますと、増加率が最も高いのは修徳（下京区）の6.6‰で、次いで東梅逕（南区）の6.4‰、本能（中京区）6.3‰の順になっています。

一方、減少率が最も高いのは弥栄（東山区）の6.9‰で、次いで水尾（右京区）の5.9‰、小栗栖（伏見区）の4.2‰の順となっています。

表－11 世帯数増加率

(単位 %)

順位	増加率の高いもの		順位	減少率の高いもの	
	国勢統計区	増加率		国勢統計区	減少率
1	下京区 修徳	6.6	1	東山区 弥栄	6.9
2	南区 東梅逕	6.4	2	右京区 水尾	5.9
3	中京区 本能	6.3	3	伏見区 小栗栖	4.2
4	伏見区 桃山東	6.0	4	北区 小野郷	3.7
5	中京区 龍池	5.7	5	下京区 梅逕	3.6
6	山科区 山階南	5.4	6	右京区 黒田	3.5
7	下京区 尚徳	5.1	7	下京区 菊浜	2.7
8	下京区 開智	4.9	8	中京区 立誠	2.6
9	右京区 山ノ内	4.7	9	右京区 山国	2.3
10	下京区 有隣	4.5	10	右京区 宇津	2.2

(2) 1世帯当たり人員

平成20年10月1日現在の1世帯当たりの人員を国勢統計区別にみますと、人員が最も多いのは水尾（右京区）の3.91人で、次いで大原（左京区）の3.62人、桂坂（西京区）の3.16人と続き、上位3統計区は前年と同じ順位となっており、上位10位までの統計区は周辺区にある統計区で占められています。

一方、1世帯当たりの人員が最も少ないのは龍池（中京区）の1.49人で、次いで有隣（下京区）の1.52人、菊浜（下京区）の1.57人と続き、上位3統計区は前年と同じ順位となっています。上位10位までの統計区は、ほぼ都心区にある統計区が占めており、下京区が6統計区、中京区が3統計区となっています。

表－12 1世帯当たり人員

(単位 人)

順位	人員の多いもの		順位	人員の少ないもの	
	国勢統計区	人員		国勢統計区	人員
1	右京区 水尾	3.91	1	中京区 龍池	1.49
2	左京区 大原	3.62	2	下京区 有隣	1.52
3	西京区 桂坂	3.16	3	下京区 菊浜	1.57
4	伏見区 久我の杜	3.06	4	下京区 成徳	1.58
5	右京区 細野	2.96	5	下京区 永松	1.58
6	西京区 大原野	2.95	6	左京区 養正	1.58
7	伏見区 日野	2.95	7	中京区 生祥	1.63
8	伏見区 北醍醐	2.92	8	下京区 格致	1.63
9	左京区 鞍馬	2.92	9	下京区 皆山	1.65
10	右京区 弓削	2.91	10	中京区 初音	1.65

(3) 人口増加率

平成20年10月1日現在の人口の対前年増加率を国勢統計区別にみますと、最も高いのは本能（中京区）の6.4‰で、次いで桃山東（伏見区）の5.9‰、修徳（下京区）の5.1‰となっています。上位10位までの統計区は人口が増加した4行政区に含まれています。

一方、減少率が最も高いのは水尾（右京区）の8.8‰で、次いで小野郷（北区）の6.4‰、弥栄（東山区）の5.5‰となっています。

表－13 人口増加率

(単位 %)

順位	増加率の高いもの		順位	減少率の高いもの	
	国勢統計区	増加率		国勢統計区	減少率
1	中京区 本能	6.4	1	右京区 水尾	8.8
2	伏見区 桃山東	5.9	2	北区 小野郷	6.4
3	下京区 修徳	5.1	3	東山区 弥栄	5.5
4	中京区 初音	4.7	4	左京区 花脊	4.7
5	右京区 山ノ内	4.6	5	北区 中川	4.1
6	下京区 尚徳	4.6	6	中京区 立誠	3.7
7	中京区 龍池	4.3	7	右京区 黒田	3.6
8	南区 唐橋	3.8	8	北区 雲ヶ畑	3.5
9	南区 東梅逕	3.6	9	北区 元町	3.4
10	右京区 西院第二	3.4	10	下京区 菊浜	2.9

(4) 人口密度

平成20年10月1日現在の人口密度を国勢統計区別にみますと、人口密度が最も高いのは本能(中京区)の2万6384人/k㎡で、次いで修徳(下京区)の2万1537人/k㎡、向島二ノ丸北(伏見区)の2万1012人/k㎡の順となっており、6統計区で2万人/k㎡を超えています。

一方、人口密度が最も低いのは久多(左京区)の3人/k㎡で、次いで広河原(左京区)の5人/k㎡、花脊(左京区)の7人/k㎡の順となっており、山間部にある統計区が上位を占めています。

表-14 人口密度

(単位 人/k㎡)

順位	人口密度の高いもの		順位	人口密度の低いもの	
	国勢統計区	人口密度		国勢統計区	人口密度
1	中京区 本能	26,384	1	左京区 久多	3
2	下京区 修徳	21,537	2	左京区 広河原	5
3	伏見区 向島二ノ丸北	21,012	3	左京区 花脊	7
4	中京区 城巽	20,795	4	右京区 黒田	9
5	北区 柏野	20,446	5	北区 雲ヶ畑	10
6	下京区 格致	20,038	6	右京区 細野	13
7	上京区 嘉楽	19,790	7	北区 小野郷	14
8	下京区 有隣	19,591	8	右京区 水尾	17
9	中京区 朱雀第一	19,054	9	右京区 岩陰	18
10	中京区 朱雀第三	18,515	10	右京区 宇津	25

(5) 1000人当たりの出生

平成19年10月から20年9月までの1年間の出生数を平成19年10月1日現在の人口で除して求めた出生率(1000人当たりの出生数)を国勢統計区別にみますと、出生率が最も高いのは広河原(左京区)の17.2人で、次いで桂徳(西京区)の16.4人、久我の杜(伏見区)の15.8人の順となっています。

一方、出生率が最も低いのは、出生がなかった中川(北区)、小野郷(北区)、雲ヶ畑(北区)、久多(左京区)及び水尾(右京区)の5統計区となっています。

表-15 1000人当たりの出生(出生率)

(単位 人)

順位	出生率の高いもの		順位	出生率の低いもの	
	国勢統計区	出生率		国勢統計区	出生率
1	左京区 広河原	17.2	1	北区 中川	—
2	西京区 桂徳	16.4	1	北区 小野郷	—
3	伏見区 久我の杜	15.8	1	北区 雲ヶ畑	—
4	西京区 川岡東	15.6	1	左京区 久多	—
5	右京区 西院第二	14.4	1	右京区 水尾	—
6	上京区 正親	14.0	6	中京区 立誠	1.3
7	伏見区 久我	14.0	7	左京区 鞍馬	1.5
8	南区 久世	13.4	8	東山区 貞教	1.8
9	西京区 桂東	13.4	9	東山区 弥栄	2.0
10	右京区 西京極西	12.9	10	下京区 豊園	2.0

(6) 1000人当たりの死亡

平成19年10月から20年9月までの1年間の死亡数を平成19年10月1日現在の人口で除して求めた死亡率(1000人当たりの死亡数)を国勢統計区別にみますと、死亡率が最も高いのは水尾(右京区)の36.5人で、次いで崇仁(下京区)の28.6人、久多(左京区)の27.3人の順となっています。

一方、死亡率が最も低いのは、久我の杜(伏見区)の3.5人で、次いで南太秦(右京区)の3.7人、桂坂(西京区)の4.3人となっています。

表-16 1000人当たりの死亡(死亡率)

(単位 人)

順位	死亡率の高いもの		順位	死亡率の低いもの	
	国勢統計区	死亡率		国勢統計区	死亡率
1	右京区 水尾	36.5	1	伏見区 久我の杜	3.5
2	下京区 崇仁	28.6	2	右京区 南太秦	3.7
3	左京区 久多	27.3	3	西京区 桂坂	4.3
4	左京区 広河原	25.9	4	西京区 大枝	4.4
5	左京区 花脊	23.3	5	西京区 桂川	5.0
6	中京区 立誠	22.7	6	伏見区 羽東師	5.1
7	北区 中川	22.6	7	西京区 桂徳	5.3
8	北区 小野郷	22.3	8	中京区 明倫	5.3
9	東山区 弥栄	22.3	9	南区 久世	5.3
10	右京区 黒田	22.0	10	右京区 西院第二	5.4

(7) 1000人当たりの転入

平成19年10月から20年9月までの1年間の転入数を平成19年10月1日現在の人口で除して求めた転入率(1000人当たりの転入数)を国勢統計区別にみますと、転入率が最も高いのは龍池(中京区)の172.2人で、次いで成徳(下京区)の168.1人、修徳(下京区)の167.1人の順となっております、中京区と下京区の統計区が上位10位を占めています。

一方、転入率が最も低いのは、小野郷(北区)の6.4人で、次いで中川(北区)の9.0人、久多(左京区)の18.2人の順となっております、山間部にある統計区で転入率が低くなっています。

表-17 1000人当たりの転入(転入率)

(単位 人)

順位	転入率の高いもの		順位	転入率の低いもの	
	国勢統計区	転入率		国勢統計区	転入率
1	中京区 龍池	172.2	1	北 区 小野郷	6.4
2	下京区 成徳	168.1	2	北 区 中川	9.0
3	下京区 修徳	167.1	3	左京区 久多	18.2
4	中京区 本能	166.6	4	右京区 山国	18.9
5	下京区 永松	162.5	5	右京区 宕陰	19.2
6	中京区 初音	158.2	6	右京区 細野	19.2
7	下京区 尚徳	148.6	7	北 区 雲ヶ畑	20.1
8	下京区 郁文	147.2	8	左京区 大原	24.4
9	下京区 有隣	146.9	9	西京区 大原野	31.0
10	下京区 開智	143.5	10	右京区 弓削	31.9

(8) 1000人当たりの転出

平成19年10月から20年9月までの1年間の転出数を平成19年10月1日現在の人口で除して求めた転出率(1000人当たりの転出数)を国勢統計区別にみますと、転出率が最も高いのは永松(下京区)の157.5人で、次いで成徳(下京区)の139.3人、郁文(下京区)の132.9人の順となっております。また、永松(下京区)、成徳(下京区)、龍池(中京区)、郁文(下京区)、有隣(下京区)の5統計区は転入率の高い上位10統計区にも含まれており、転入率、転出率共に高くなっています。

一方、転出率が最も低いのは、久多(左京区)の9.1人で、次いで広河原(左京区)の17.2人、細野(右京区)の21.4人の順となっております、山間部にある統計区で転入率、転出率共に低くなっています。

表-18 1000人当たりの転出(転出率)

(単位 人)

順位	転出率の高いもの		順位	転出率の低いもの	
	国勢統計区	転出率		国勢統計区	転出率
1	下京区 永松	157.5	1	左京区 久多	9.1
2	下京区 成徳	139.3	2	左京区 広河原	17.2
3	下京区 郁文	132.9	3	右京区 細野	21.4
4	下京区 有隣	131.6	4	北 区 中川	27.1
5	下京区 格致	128.6	5	右京区 宇津	28.7
6	中京区 龍池	127.4	6	右京区 山国	34.3
7	下京区 菊浜	124.4	7	左京区 大原	34.6
8	東山区 弥栄	120.8	8	北 区 雲ヶ畑	35.2
9	下京区 皆山	118.6	9	右京区 弓削	38.0
10	山科区 山階	117.5	10	左京区 鞍馬	38.2

88ページからの「付表 国勢統計区別の状況」においては、すべての国勢統計区について、上記の数値を掲載しています。